結局はほとんど変わらないんですよね、なにも。

ピーコック®

Magazine for HATTORI City Boys & Girls

2021 JUN Issue.03

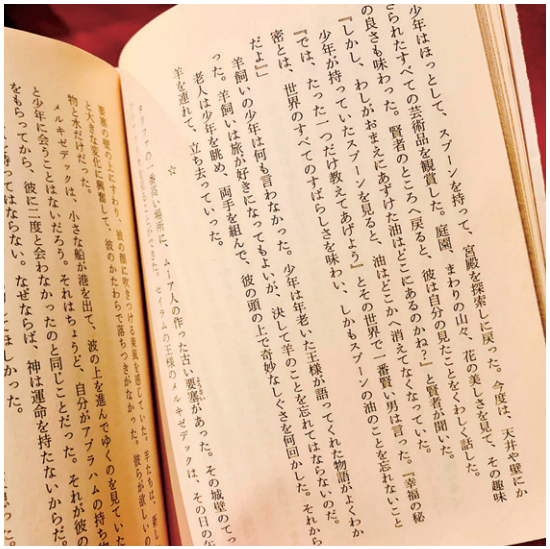
ピーコックマガジン　2021年6月号

発行：喫茶ピーコック　大阪府豊中市服部元町1-1-6　TEL：06-6864-0317

～店主が綴る、エッセイのようなもの～

くちびるに珈琲を。

the sun in mind,the coffee to lips.



少年はほっとして、スプーンを持って、宮殿を探索しに戻った。今度は、天井や壁にかこられたすべての芸術品を観賞した。庭園、まわりの山々、花の美しさを見て、その趣味の良さも味わった。賢者のところへ戻ると、彼は自分の見たことをくわしく話した。

「しかし、わしがおまえにあずけた油はどこへ消えてなくなっていた。

少年が持っていたスプーンを見ると、油はどこかへ消えてなくなっていた。

「では、たった一つだけ教えてあげよう」とその世界で一番賢い男は言った。「幸福の秘密とは、世界のすべてのすばらしさを味わい、しかもスプーンの油のことを忘れないことだよ」

羊飼いの少年は何も言わなかった。少年は年老いた王様が語ってくれた物語がよくわかった。羊飼いは旅が好きになってもよいが、決して羊のことを忘れてはならないのだ。

老人は少年を眺め、両手を組んで、彼の頭の上で奇妙なしぐさを何回かした。それから羊を連れて、立ち去っていった。

☆

人生とは、見聞録

新しい時代が始まって、日々目まぐるしく移り変わる毎日
僕らの構造なんて縄文時代から変わらないのに
江戸時代の1年分の情報を
1日で摂取してしまう現代らしいですね
そりゃ脳みそだって疲れるし
翻弄されたり、現実逃避もするよなぁって思う

「よく吟味して見聞きする」なんて贅沢な話で
そんな余裕さえ持てずに
受け売りの転売みたいになっているんじゃないだろうか

子供の頃はいつだって自分の興味に忠実で、自分の話が大好きで
毎日が「ぼくの見聞録」だった
それがいつからか編集みたいな作業が入っちゃって
つい俗っぽいものになってしまう

でもやっぱり、人生を振り返るとそれは僕や私の見聞録
面白可笑しく、夏休みの絵日記みたいなものでありたいですよね

さて、これから何を見て、何を聞くか
自分の心に訊いてみるのが良いんじゃないでしょうか

僕の好きな言葉

幸福の秘密とは、世界のすべてのすばらしさを味わい、しかもスプーンの油のことを忘れないことだよ

小説「アルケミスト」に登場する賢者の言葉

本と音とお店のはなし。

今月の一冊

AMELIE（アメリ）

イポリト・ベルナール

20年前にテアトル梅田で観た映画「アメリ」の小説版。自分の「好き」を大切にすること、誰かの「好き」に興味を持つこと、そして、世界と調和すること。子供の頃に好きだったものを思い出させてくれる、童話のような小説。20歳の頃、みんな何してました?

今月の一曲

Funny Bunny

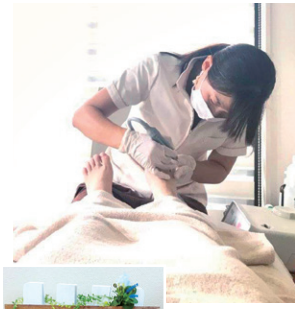
the pillows

僕がバンドを辞める21歳の時にメンバーが贈ってくれた1曲。「君の夢が叶うのは誰かのおかげじゃないぜ　風の強い日を選んで歩いてきた」「好きな場所へ行こう　君ならそれができる」、未だに背中を押される歌詞とメロウなメロディが心にグッと突き刺さる。

僕らの町のお店

フットケアサロン Baum

豊中市服部西町2-1-20 第3メゾン服部801号室
阪急宝塚線「服部天神」駅より徒歩3分
10:00〜16:00（完全予約制）㊡不定休
☎050-3718-4412　footcare.baum@gmail.com



シューズ販売やシューフィッターを経てドイツ式フットケアサロンを開業した黒田久美子さんのお店。足のトラブルやケア、爪切りはもちろん、足の測定や靴選びのアドバイスなど何でも相談に乗ってくれる、まさに「足の神様」。巻き爪などでお困りの方はぜひ。

上芝英司｜1979年服部生まれ、喫茶ピーコック3代目店主。喫茶と文筆に勤しむA型乙女座ヒゲメガネ。企画や作文、図画工作が得意。

PEACOCK64

https://peacock64.com
PEACOCK64 服部

for HATTORI City Boys & Girls

普遍は不変

僕は昭和54年生まれなので、今年で42歳になるんですよ。今回は20歳の頃の話をしようと思ってたんだけど、知らないうち倍以上生きてるんですね。そりゃあちこち疲れたりするわけだ。

こないだひさびさに映画「アメリ」を観たんです。公開が2001年なので、ちょうど20年前の映画。僕は公開時に観に行ったので、アメリを観ながら当時の自分や周りのことをぼんやりと思い出していて。

バンドをしたり、バイクを改造したり、友達を集めてイベントしたり、雑貨や食器を買い集めたり、こうやって文章を書いたりもしていました。

当時はまだまだ独身で、ピザ屋とか回転寿司屋でバイトしたり、ライブハウスで働いていた時期もあった。

20畳くらいある古いワンルームマンションには壁一面に本棚があって、本や観葉植物があって、お香を焚いて好きな音楽をかけて。

休みの日にはホットケーキを大量に焼いたり、環境に良い洗剤で洗濯したり、近所の田んぼを観察したり。

映画を観終わった後に「あの当時は独身を謳歌していたんだなぁ」とか思ったんだけど、よくよく考えると今も大して変わってないんですよね。

ギター弾いてドラム叩いて、バイク乗って、友達とも遊ぶし、文章も書いてる。コーヒー淹れながら本も読むし、観葉植物もまた増えてきた。

50ccが250ccになったりCDがSpotifyになったりしただけで、好きなものは今も好きだし嫌いなものは今でも嫌い。

仕事に就き自分の生活や人生のボリュームが増してくると「扱うもの」が多くなってきちゃうんだけど、そのほとんどは一時的に必要だったり状況によって持たされているものだったりします。

「あの頃は持ってなかったもの」ももちろんあるけれど、人生の本筋は「結局、今も手元にあるもの」のような気がする。

志茂田景樹が対談の中で「結局は元に戻る」みたいなこと言ってたんだけど、平均寿命からすると42歳って折り返し地点とかじゃないですか。

そうなるとこれから僕は幼き日に戻っていくんだろうか。大変ですよ、小さい頃の僕って。登園拒否したりしてましたからね。

あと倍くらい生きたら「登店拒否」でもするのかな。「ピーコックなんて行きたくないよう!」とか言って。